

試料・情報利用研究計画書(概要)						
審査委員会 受付番号	2020-2015	利用 形態	内部研究	利用する 試料・情報	対象:地域住民コホート 宮城県参加者 約5万人 試料:なし 情報:居住地区名、被災情報、心的外傷後ストレス反応に関する情報	
主たる研究機関	東北メディカル・メガバンク機構			分担 研究機関	—	
研究題目	津波災害によるメンタルヘルス増悪者の出現頻度の地域別予測			研究期間	2021年5月～2024年3月	
実施責任者	富田 博秋	所属	東北メディカル・メガバンク機構		職位	教授
研究目的と意義	津波災害発災後早期および発災前におけるメンタルヘルス増悪者の出現頻度をコミュニティ単位で予測するモデルを作成すること。					
研究計画概要	東日本大震災の被災者健康調査のメンタルヘルス指標の全設問に回答した20歳以上の男女を解析対象とする。七ヶ浜町、石巻市雄勝・牡鹿・網地島地区および仙台市若林区における大震災から約1年後の被災者健康調査の基本情報、被災に関する情報ならびにメンタルヘルス指標を用いて作成した予測モデルについて、地域住民コホートに登録している宮城県の約5万人の同様のデータを使用して、妥当性の検討および精緻化を行う。 また、災害科学国際研究所広域被害把握研究分野の発災前シミュレーションおよび「リアルタイム津波浸水被害予測システム」と連携し、発災前および発災直後のメンタルヘルス増悪者の出現頻度予測を行う。					
期待される成果	本事業が目指す地域医療保健の向上および将来の大災害を勘案した地域医療保健体制の構築に貢献するものである。					
これまでの倫理 審査等の経過	すでに東北メディカル・メガバンク機構倫理委員会、東北大学医学系研究科倫理委員会で承認されている研究計画の一部として実施する。					
倫理面、セキュリ ティー面への配慮	ヒトを対象とする医学系研究の倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理指針を遵守して研究を遂行する。 データの解析は、東北メディカル・メガバンク機構スーパーコンピュータ内で行うため、高いセキュリティが担保されている。					
その他特記事項	東北メディカル・メガバンク事業					
* 公開日	令和3年3月25日					